

1 今回の講義の内容

定理 2.3 の証明から, 教科書 2.8 節のいけるところまで.

ハイライト

- いろいろなフォーマリズム (DFA, NFA, ϵ -NFA, regular expression, ...) の同値性
- 2.8 節
 - 複数のフォーマリズムを行き来すると, 便利!
 - 与えられたオートマトンを用いて, 新しいオートマトンを構成する.

レポート課題 (復習問題)

今回はなし!

2 次回の講義の内容

2015.10.16 (Fri) 教科書 p.45 まで.

教科書の補足

Remark 1. 定理 2.14, 2.15 では, 新しく構成されるオートマトンの状態が, もとのオートマトンの状態とブール行列のペア (p, A) となっている. 直感的には, 行列 A はオートマトンの計算の**継続** (このあと何ができるのか?) を表す.

Remark 2. 2.10.1 節は議論が抽象的で少しむずかしいかもしれない. 目標は定理 2.16, 2.17, 系 2.3 で, 特に系 2.3 は, 与えられた regular language L を認識する**状態数最小のオートマトン**を与える.

Remark 3. 定義 2.17 の条件 $\varphi^{-1}(F_2) = F_1$ は少しわかりにくいかもしれない. これを同値な条件

$$\forall q \in Q_1. \quad (q \in F_1 \iff \varphi(q) \in F_2)$$

に書き換えると, より直感的?

レポート課題 (予習問題)

今回はなし!